

## 歴史の発見の旅

—安城市立北部小学校における総合学習の実践—

船尾 日出志

(愛知教育大学 社会科教育講座)

野村 裕子

(安城市立北部小学校)

## ENTDECKUNGSREISE DER GESCHICHTE

— Praxis des Gesamtunterrichts an der HOKUBU Elementarschule zu Anjou —

Hideshi FUNAO

(Lehrstuhl fuer Gemeinschaftskundeunterricht)

Hiroko NOMURA

(Lehrerin an der HOKUBU Elementarschule zu Anjou)

### Inhaltsverzeichnis

Vorwort, 1. Zur Einfuehrung, 2. Ziele der Forschung, 3. Unsere Hypothese, 4. Unterrichtspraxis ((1) Einteilung unser Klasse in 21 Gruppen, (2) Zwei Beispiele: Entdeckungsreise; Traeume der Kinder), 5. Ergebnisse, 6. Kuenftige Aufgaben

キーワード：総合学習 (総合的学習の時間), 地域の特色, 子どもの主体性

### 序

2002年度より正式に始まる我が国の新しい教育課程の特徴を具体的に表現するものの1つは、総合的学習の時間である。それについては、すでに先行的実践が行われ、数々の成果が達成されている。ここで報告するものもまたその1つである。よい意味で平凡な、素朴な実践であり、普通の学校の普通の教師が必要以上の無理をせずにできる実践であることに値打ちがある。

北部小学校は文字通り安城市最北部に位置する小学校である。校区は国道一号線の北側に隣接していることから分かるように古来、交通の要衝であった。校区には多数の歴史的文化遺産が存在している。

野村教諭はそのような地域や学校の特色を活かす。ただしそのことは出発点でしかない。野村教諭は「石碑がある」とか「石碑をみる」とはしない。あくまでも「石碑は語る」なのである。そこには子どもが主体的に活動することを欲する教師としての姿勢が表明されている。だからこそ子どもたちは主体的に地域(例えば石碑, 例えば地域の方)と対峙し, 人格発達を遂げることができたのである。その証拠(証人)は戦争で父を亡くしたことを誇らしいとする山田さんの言葉に「今でも本心を抑えているのかもしれない」と納得せず, 追究を深め, ついには石碑が語る深い意味を読み取り, 忠魂碑の前でどんな理由があっても戦争はいけないと決意したS君である。

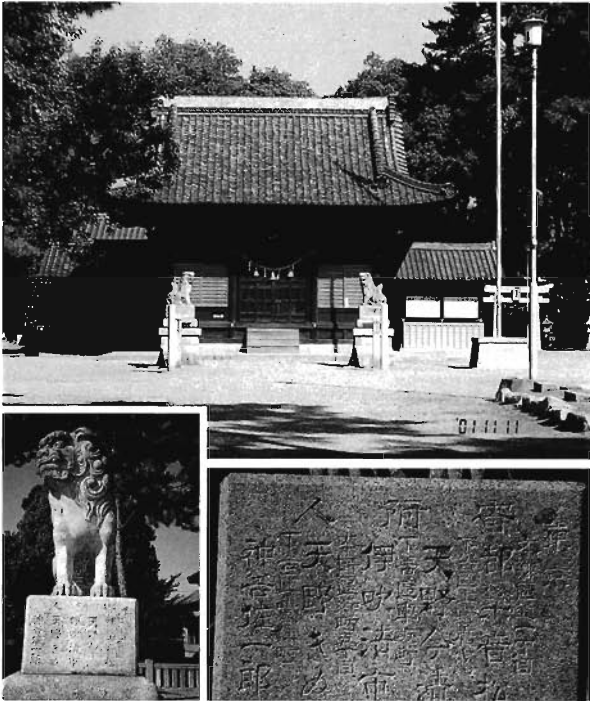


## 1. はじめに

本校には、樹齢80年余のヒトツバタゴ（通称なんじゃもんじゃ）が子どもたちのシンボルになっている。毎年4月の終わり頃白い花でおおわれ、見学者が絶えない。

また、校区内には旧東海道が東西に長い校区に寄り添うように通っており、816年に建立されたという専超寺や、1880年の明治用水開通を記念して造られた明治川神社など数々の歴史がかおる文化遺産がある。

しかし、子どもたちは、自分が生活しているふるさとの良さやそこで生きている恩恵にほとんどが気づいていない。そこで、子どもたちと地域を歩き見回してみた。その結果、白山比賣神社には、東京や大阪在住の方の名前が狛犬に記されていることに疑問を投げかける子も出てきた。



## 2. 研究のねらい

### (1) ねらい

子どもたちに、地域の歴史を発見する学習を通してふるさとに誇りと希望を持たせ、それを生きるよりどころにすることにより、自信を持って堂々と生きていく子どもに育てたいと考えた。そして、このことを地域の古いもの調査や地域の方からの聞き取りなどの体験活動により、ふるさとの良さがわかり、ふるさとが大好きな子どもに育てたいと考えた。

また、地域の人々とのふれあいを通し、それぞれの方の生きざまに共感し、思いやりの心を育てるとともに、自分自身の生き方をも問い直す子どもに育てたいとも考えている。

### (2) 年間の計画（単元構想図は、次ページ参照）

#### ①始めよう－オリエンテーションを行う。

どんなところに興味があるか一人一人が発表し、自分の考えを確かにする。

#### ②知ろう－グループを作る。

活動の基本は個人であるが、必要に応じてグループで調査方法や発表の相談や磨き合いを行う。

#### ③伝えよう－中間発表である。

互いに追究したいことを知らせ合う。内容はもとより、伝え方、表現の仕方についても互いに意見を交換し合い、今後の活動に生かしていくというねらいがある。

#### ④知ろう－中間発表での反省を生かし、夏休みを中心に、さらに追究活動を進める。

#### ⑤発表の準備をしよう－まとめる。

発表を考え、効果的なまとめ方を考える。実行委員により、発表会の計画立案、案内状の準備、当日の司会、進行を行う。

#### ⑥伝えよう－本発表会である。

保護者やお世話になった地域の方を招いて、それぞれの活動の成果についてグループごとに発表する。

#### ⑦伝えよう－全校に向けて、本発表のダイジェスト版的に、学年の取り組みや追究した内容等を知らせる。

#### ⑧広げよう－自分たちの知り得た知識をもとに、全校でのウォークラリーを企画し、地域の良さを多くの人々に広く知らせる。

#### ⑨考えよう－将来の生活や行き方につなげていく視点を持つ。

## 3. 研究の仮説

#### ①地域の歴史を発見する学習を行うことにより、自分たちの住む地域の良さがわかり、地域に対して誇りを持つことができるのではないか。

#### ②地域の古いもの調査や地域の方からの聞き取りなどの体験活動により、ふるさとが大好きな子が育つのではないだろうか。

## 4. 実践

### (1) グループ作り

子どもたちの調べ学習のグループは、①地域へ出かけるための安全対策②多様な課題に応じるなどのために多くの指導者を必要とすること等により、目的別にクラスの枠を越えて取り組むことにした。

その結果、21のグループができ、次のようなことがらに子どもたちの目が向いた。

#### \*学校の歴史や教育に関係すること－5グループ

学区の変遷、給食、校歌、当時の子どもたちの思い

#### \*松並木に関係すること－2グループ

6年 『地域の歴史発見！』 単元構想図

ねらい ①地域の方々とふれあいを通して、地域の歴史を探る。  
②先人の努力を知り、郷土を愛する心を育てる。

段階	主な活動と問題意識の変容	他教科との関連	主な教師支援
地域学習への興味を持つ	<p>学区には、歴史的に見ておもしろそうなお店がたくさんあるな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆校庭のなんじゃもんじゃは、いつごろからはえているのかな</li> <li>◆僕たちは、93回目の卒業生だよ</li> <li>◆おじいちゃんも卒業生なんだ</li> <li>◆松並木は、お殿様も通ったのかな</li> <li>◆白山比賣神社はいつごろからあるのかな</li> <li>◆ともえ幼稚園は、学校みたいだったそうだよ</li> <li>◆隣に、もうひとつお寺があるね</li> <li>◆旧国道には、お店の看板だけがたくさんあるね</li> </ul>	<p>★社会「安城の歴史」</p> <p>★3・4年社会「あんじょう」</p> <p>★道徳「学校のほこり」</p> <p>★図工「学校は大きな表現ステージ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外へクラス毎に出かけ、地域の様子に目を向ける。</li> <li>・テーマ毎に校外へ出かける際に、①安全面②付添を工夫する。</li> <li>・着眼点のポイントについて実際の場で知らせる。</li> </ul>
地域の歴史や文化・伝統について追究する	<p>学区のことをいろいろ調べてみたいな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆学校の歴史や教育に関係することを調べる活動 歴史、人数の変遷、学区の変遷、給食のこと、校歌、当時の子供たちの思い、</li> <li>☆松並木に関係することを調べる活動</li> <li>☆戦争の時代に関係することを調べる活動 お墓、食べ物、日常生活、遊び、</li> <li>☆文化や伝統・神社仏閣に関係することを調べる活動 白山比賣神社、崇福寺、専超寺、巫女、伝説</li> <li>☆そのほかの事からについて調べる活動 猿渡川、建物、地形</li> </ul> <p>調べていることについて、友達と意見交換しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆うまくいっていることや困っていることなどの情報交換をおこなおう</li> <li>◆ほかのグループは、どのようにやっているのだろうか</li> <li>◆追究の仕方はどうだろうか</li> <li>◆ほかのグループがインタビューしたことで生かせることはないだろうか</li> <li>◆まとめ方は、どのような工夫があるのか</li> </ul>	<p>★道徳「あばれ川」</p> <p>★国語「ヒロシマのうた」</p> <p>★算数「資料の調べ方」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く人とのコンタクトの取り方、インタビューの仕方について基本指導を行う。</li> <li>・松並木保存会の人から話を聞く会を設定する。</li> <li>・北部小に通学していた人から話を聞く会を設定する。</li> <li>・戦争体験の人から話を聞く会を設定する。</li> <li>・写真の取り方について、専門家から話を聞く会を設定する。</li> </ul>
発表会を開く	<p>みんなが追究したことを発表しあおう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆同じような研究グループで発表方法を工夫しよう ・B紙で ・紙芝居で ・寸劇で ・本を作って ・実演をして ・ビデオで ・その他</li> <li>◆実行委員を作り発表会を計画しよう</li> <li>◆家の人にも見てもらおう</li> <li>◆お世話になった人を招待しよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力の得られた方々に招待状を書くようにする。</li> <li>・協力に対するお礼状を書かせる。</li> </ul>
親子ふれあい“ふるさとウォッチング”	<p>親子で“ふるさとウォッチング”を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆親子での「歴史ウォークラリー」を計画しよう</li> <li>◆チェックポイント</li> <li>◆地域に関するクイズをしながら、親子でウォークラリーを楽しもう</li> </ul>	<p>★道徳「わか街」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年学級行事として、PTAの協力を得て、保護者の参加を呼びかける。</li> </ul>
郷土を愛し、大切に	<p>今村ってすばらしいところだね。私たちの住むこの地域に誇りを持ち、大切にしていきたいね。</p>		

- \*戦争の時代に関係すること—5グループ  
戦死した人，食べ物，日常の生活，遊び
- \*文化や伝統や神社仏閣に関係すること—6グループ  
白山比賣神社，崇福寺，専超寺，巫女，伝説
- \*そのほかのことからについて—3グループ  
猿渡川，建物や地形

以上の中から，白山比賣神社の隣にある『忠魂碑』に目を留め，追究した4人グループの一人S君と学校の歴史に興味を持ったYさんを含む3人グループの追究を追ってみることにする。

(2) 二つの実践例

A. 『石碑は語る』

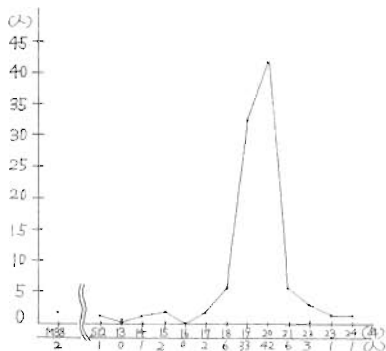
ア，S君の動機

S君は，遊び場になっている「ちびっ子広場」の隣にあった石碑に目を留めた。日頃から，小高い塚の上に立っている石碑には，羽根がついた球が乗っており近寄り難いものを感じていたようだ。6年生になって総合の授業で今村の歴史を調べることになり，地域を歩き回った時，その石碑が『忠魂碑』という名前であることを知った。彼は，忠魂碑に刻まれた名前に疑問を持った。引率の教師により，それが戦争で亡くなった人の名前であり，この今村地区だけで百名の戦没者が出たことを聞く。その結果，彼は，この石碑にまつわる調べ学習を開始した。

イ，S君の追究

(ア) 出かけてみよう

彼は，始めに町内会事務所へ出かけた。そこには，『今村戦没者名簿』と題する金文字の立派な本があった。名簿には，戦没年月日や年齢，亡くなった場所などが詳しく記されていた。まず彼は，戦没年月日と場所に目を向けた（資料1）。



昭和19年と20年が，他の年より圧倒的に多いことから，終戦間近に敗色が濃くなり激しい戦いになっていったからだと推測している。

また，亡くなった場所（資料2）では，フィリピンと中国とで全体の半数以上を占めていることから，この地域での戦いの激しさを推測している。

また，亡くなった時の年齢にも目を向けている。彼は，この資料3については，「未来のある青年や二十代三十代の働き盛りの人が沢山亡くなったということがわかった。働き手を失った遺族は，悲しだけでなく生活にも困ったことだろう。」とコメントを書いている。

場所	人数	ビルマ	人数
フィリピン	36	インドネシア	5
中国	21	サイパン	9
マリアナ群島	9	南支那海	9
日本	9	東支那海	5
ソ連	6	朝鮮	4
ソロモン群島	3	北朝鮮	8
ニューギニア	2	インドネシア	10
蒲州	2	ソロモン群島	6
ピアク島	1	ニューアリド島	5
			0
			1
			1
			2

(イ) 遺族の方から聞いて

戦争時代に関係する事からについて，5グループが調べていたため，本校に通学し5年生で終戦を迎えた山田さんから，学年全部でお話を聞く時間を設けた。山田さんは，4年生の時にお父さんを戦争でなくし，お母さんと自分を頭に第3人の4人兄弟が残されたそうだ。その時S君は「山田さんはお父さんを亡くされたのに，お国のためとか名誉なことなどと誇らしげに言われた。家族を亡くせば，僕はとても悲しいことだと思うが，当時はそんなことが言える時代ではなく，今でも本心を抑えているのかもしれないと思った。」と感想を書いている。

(ウ) S君の出会った本

総合の調べ学習は，5月下旬から取り組んできており，夏休みを前に国語で『ヒロシマのうた』（今西祐行作）を学習した。その発展として，S君は『お母さんの木』（大川悦生作）に出会った。これは，7人の息子を出征させたお母さんが，桐の木に託して息子の無事を願う話である。彼は，「本を読んだ僕は，戦争に行った人が亡くなって本当に困ったのは，残された家族を抱えて働かなければならなくなった女の人のではないかと考えた。」のである。

(エ) 僕の思いと同じだ

遺族の一人である山田さんの話に納得できなかった彼は，残された女の人の話を聞きたいと，市の図書館へ足を運んだ。そして，学区にご主人を亡くされた方がいることを捜し当てたのだ。彼が出会った人は，杉浦玉枝さんという81才の方である。

玉枝さんからの話の要約

玉枝さんのご主人に召集令状がきたのは，昭和19年5月20日だった。赤紙を神棚に供え身辺整理をすませたご主人は，6月12日，2才と生後6日目の子供さんと奥さんの玉枝さんを残して出征された。玉枝さんは

涙がこぼれて仕方がなかったが断れるものではなかった。入隊1か月後に一度だけきた葉書から、フィリピンの方へ行ったらしいということが分かった。当時名古屋にいた玉枝さんは、毎日B29に追われ、子供たちを乳母車に乗せて逃げた。食べ物も少なく配給制だった。昭和20年3月、玉枝さんは実家のある今村に疎開した。終戦後、内地の人はすぐ帰れたが、ご主人のように激戦地へ行った人は、消息不明になった人が多かった。玉枝さんの場合は、ご両親が健在だったので子供を預けて働くことができたが、そうでない人は大変だった。昭和23年春、玉枝さんのもとに白木の箱が届いた。中には「故 杉浦四一霊」と書かれた短冊が入っていた。激戦地では、遺体を処理する余裕などなく、骨も遺品も戻ってこなかったらしい。終戦から3年もたっていて覚悟ができていた玉枝さんは、出征の時ほど涙はこぼれなかったそうだ。

玉枝さんは最後に、「戦争は二度としないことですね。」とおっしゃった。

S君のまとめ

ただの石碑だと思っていた忠魂碑には、深い意味が込められていた。かけがえのない家族を失い、戦後の混乱した世の中を懸命に生きてこられた遺族は、言葉にできないくらい苦労を重ね、現在の平和を取り戻してきたのだ。戦争は、国のためという大義名分のもと、争い、人を殺し、物ばかりか人の心までズタズタに引き裂き壊していくのだ。素直に「帰ってきてほしい」とも言えなかった時代が半世紀前にあったなんて信じることができない。それは、僕たちが生きている今が平和だからだと思う。戦後、一生懸命に働き、今の平和を創りあげた遺族の皆様のおかげなのだから。この時代を一生懸命に生きて行くこと、戦争はどんな理由があってもしてはいけないこと、そのことを、21世紀を創っていく僕たちが未来に伝えていかなければならないと、忠魂碑を前に改めて決意した。

発表会は、9月17日に行う。アメリカでテロによるビル破壊の衝撃的な事件直後である。

B. ②『夢ふくらむみんなの北小』

以下は、自分たちが93回目の卒業生になるということを知り、Yさんを含めた3人で自分たちの通う学校についての歴史に焦点を当てまとめた記録である。

ア、Yさんの動機

Yさんは、動機を次のように書いた。「私たちは、今通学している北部小学校が好きです。“なんじゃもんじゃ運動会”や“北小祭り”などの行事の他にも楽しい思い出がたくさん心に残っています。思い出がいっぱいつまった北部小を卒業する前に、少しでも北部小の歴史を知り、新しく入ってくる子たちのためにも北部小のすばらしさを知ってもらいたいと思いました。そして、北部小の歴史をどんどん積み重ねてってもらいたいと思います。」

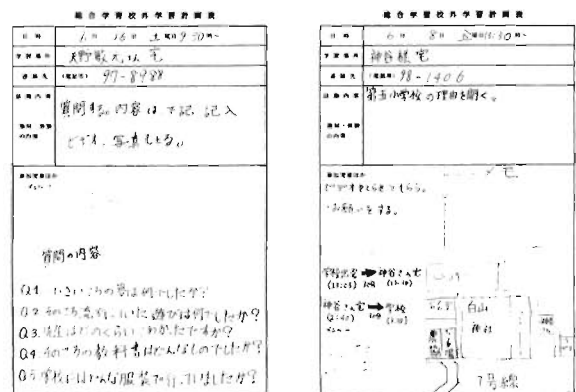
イ、年表で歴史をまとめよう

Yさんたちは、できごとと人数の変遷を年表に表すことを考えた。校長室にある人数の変遷グラフや学校沿革史を見て235cmの年表を作成する。

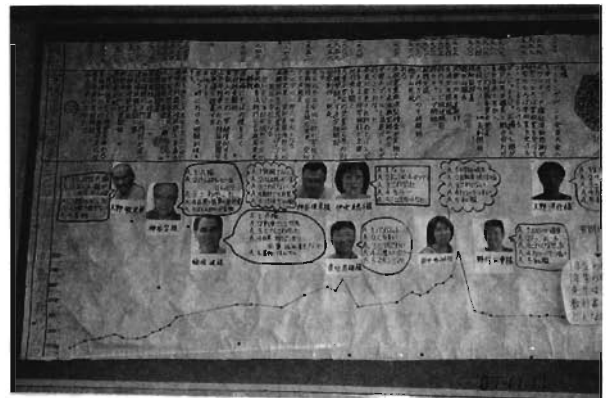
ウ、たくさんの人にインタビュー

年表と聞き取りによるまとめをどのようにしたら良いか迷っていたYさんたちは、とりあえず聞き取りに出かけることにした。一応、質問項目を考えビデオカメラも準備したが、訪問した家で歓待され、次々に話をされることさらに圧倒され、質問も思うようにできなかった。

そこで、聞く人と質問内容について、グループで話し合い、前者は、80才代、70才代と年代ごとに一人ずつ探し、後者は、自分たちが大人の人によく聞かれることを入れて①将来の夢②はやっていた遊び③先生はどんなだったか④教科書はどんなものか⑤どんな服装で通っていたかをインタビューすることにした。彼女たちは、今回の総合21グループ中、最も多い9人の地域の方々に話を聞いている。



その結果を、次の写真のようにまとめた。



Yさんの発表の一部

戦争が終わる前に子どもだった3人の方は、将来の夢が兵隊さんだったそうです。また、戦争の終わり頃の子どもの遊びも、戦争ごっこのように戦争に関係するものでした。その人たちが勉強した教科書は、白黒で文字ばかりだったそうです。学校へ通うのも、着物がほとんどだったそうです。戦争が終わってから生まれた40代の方は、鉄腕アトムになりたかったこと、

つぎはぎの服で学校へ通っていたことが分かりました。30才代の方になると教科書がカラーになってきています。将来の夢も小学校の先生やパイロット、スポーツ選手など私たちと良く似ています。服装も今の私たちと変わりがなかったと言われました。

学年での発表会には、インタビューした中での高齢の方が出席され、彼女たちの発表に身を乗り出して聞いてみえた。

そして、後日次のような感想を寄せられた。

#### 天野さんの感想

いろいろよく勉強されました。皆様の学習態度も立派だと思いました。まだまだいろいろな事があります。先生の言いつけを守り、地域の人とも交流し、小学生最後の思い出をたくさん作ってください。

エ、こんなことを感じました

発表のまとめでYさんは、次のような感想を述べている。

#### Yさんの感想

今まで、何も考えずに登校してきたが、北小がこんなに歴史があったなんて研究して驚きました。そして、この「㊦がらか、㊧じけない、㊨んせつ、㊩いなかま、㊪つくしい、心に咲かそう北小の花」のスローガンがずっと残ってほしいです。

私に協力してくださった地域の方々に感謝しています。この研究をやって、地域の方々の優しさを感じました。

#### (3) 発表会を計画しよう

いろいろなテーマを持ち、地域の歴史発見をしてきたため、発表会を行い、互いの研究を伝え合うことにした。

#### ①、学年で伝え合おう

学年での発表会には、家の人やお世話になった地域の人をお招きした。

#### 保護者の声

私も北部小学校の卒業生です。「地域の歴史発見」というテーマで、地域の人々と親睦を深めながら、自分たちの周りの事を調べる授業はすばらしいと思いました。私もこのような授業をしてみたかったです。校歌に出てくる鐘が、崇福寺の鐘だということや、なんじゃもんじゃの木の前に松が植えてあった事も分かりました。皆さんのおかげです。過去を振り返りながら、新しい世代に伝えて行くことは、今後も必要な事だと思います。これからも皆で力を合わせて取り組む授業を続けていってほしいと思います。(高比良文子さん) 地域の人の感想

大変有意義な発表会に参加でき、誠にありがとうございました。昔では考えられない全員による発表、発表態度も堂々としていてびっくりしました。よい体験であったかと思えます。父兄も同感かと思えます。途中用事があり最後まで聴くことができず大変残念に思



いました。矢張り、自分の家に来てくれた子供達の発表が気になります。さすが、Kさんグループはよく洗練されていて内容と言い、発表方法、発表態度に感心いたしました。男子グループのS

君、I君達も立派に発表されたことと推察いたします。特に、どの発表会プログラム発表も今後も研究したいとか、継承させたいとか、はたまた反省があった点は感服致しました。質問内容もよく精選され、礼儀正しいのにはびっくりしました。

#### ②、学校中に伝えよう

3年生も地域の調べ学習を行っており参考になると考え、6年生での発表のダイジェスト版的発表会を全校の前で行う。今回の発表は、低学年もいるためクイズや踊りなど見て分かりやすいことに重点を置いた。しかし、5年生のために内容が充実し追究や発表の仕方のよい前述の2グループも行う。

#### 5. 成果

今回の総合学習は、自分たちの体を動かし、直接見聞きすることを大切にしてきた。その結果、子どもたちは、40数名の地域の方々の家へ行って話を聞いてきた。そして、行く先々で歓待された。また、発表会には、15名が出席された。後日寄せられた感想に「もっともっと種々なことを知ってもらいたい。」とあり、地域の方々の今回の学習に対する協力と、子どもたちに対する熱い思いや期待を感じた。

また、子どもたちもこの「地域の歴史発見！」の総合学習を通して、地域の人々とのふれあいから学んだことを次のように書いている。

#### 竹口さんの感想

9月20日、総合の発表会がありました。私は、朝から修学旅行と総合の事で頭がいっぱいでした。私たちのチームは、しゃべるだけではつまらないと思い、工夫して紙芝居と実際に作ったお弁当を使って発表しました。ほかのチームも、昔の料理を作って食べてもらったり、みこさんの踊りをひろうしたりして、見る方

が楽しめるように工夫していました。この総合学習を通して、人とふれ合って学ぶ事の大切さ、地域の方々の温かさを感じました。

「松並木」を研究のテーマに選んだチームが、地域で松並木保存活動を30年来続けている「三日会」の方から話を聞いてきた。このことがきっかけとなり、三日会の活動に参加することになった。希望者により杭の打ち直し、植樹、ごみ拾いのボランティア活動を行った。

年間計画にあるように、最後に地域のウオータリーを予定している。当初は、子どもたちと親の学級委員による計画立案を考えていたが、今回の総合への支援の様子から、地域の方々にも協力を仰ぐことになり、2月23日に行う予定になっている。

子どもたちは、調べ学習によりこの町を愛したたくさんの方の先人がいること知った。また、地域に長くお住まいの高齢者の方は、地域のことをよく知っており、子どもたちの質問に一生懸命に答えてくださった。つまり、目の前にこの町を愛している人がたくさんいることを知ることができたのである。この体験により、ふるさとや自分の住んでいるこの地域を意識していなかった子どもたちは、この地域の良さをあらためて知ることができた。そこに生きる人々の生きざまにも触れることができた。

つまり、地域の歴史を発見する学習を行うことにより、自分たちの住む地域の良さがわかり、地域に対して誇りを持つことができたと思う。また、地域の古いもの調査や地域の方からの聞き取りなどの体験活動により、ふるさとが大好きな子が育つのではないだろうかについては、今の子どもたちの感想だけではなく、何年後後に立証されることを確信している。そこで、以上のことを以下のように総括したい。

- ①、学習内容は、子ども自身が決定するため、学習の主体者は自分自身であるという実感を子どもたちが持つことになり、主体的に問題を解決しようとする姿勢が見られた。
- ②、子どもたちが、目的達成のために必要な判断力や表現力を身につけることができた。
- ③、地域の教育資源を活用することにより、「開かれた学校」として、学校を活性化できると思われる。
- ④、地域で生活されているの方々等、多様な人間の生きざまに触れることにより、他者への理解、共感への思いやりの心を育むことができた。

## 6. 今後の課題

- ①、子どもの興味や関心に基づき、追究しがいのある学習教材を掘り起こすこと、その学習教材を子どもの学習問題にどうおろすかの手だてを探る。
- ②、子ども一人一人の成長を、よりの確に評価する手

だてを確立する。豊かな体験に裏づけられた知識や理解は、児童の興味や関心を高め、自ら思考し判断し、解決していく力となる。

こうした機会を多く設けることにより、生涯生きて働く力が育っていくものと考ええる。

そこで、これらのことを十分に踏まえ地域の教育環境を見直し、地域との関係を一層強化してふるさとの先人の築いた歴史や守り伝えられた郷土の文化等を学んだり、体験したりするなどの幅広い教育活動を積極的に推進することによって、生涯教育の基礎作りにつながる豊かな人間育成を図っていきたい。

最後に、『忠魂碑』をまとめたS君の提案により、今年度の学芸会は『お母さんの木』に取り組むことになった。

## 参考文献

特色ある教育活動の展開のための実践事例集  
 - 「総合的な学習時間」の学習活動の展開 -  
 (文部省発行)